

玉川教会たより

日本基督教団玉川教会
町田市玉川学園 4-5-32
電話 042-732-9321

「平和の基(もと)」

「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、
槍を打ち直して鎌とする。」 (イザヤ書2章4節)

8月を迎えて今年も「平和」を強く意識させられる時を過ごしてまいりました。「平和」という言葉は聖書に置いても様々な場面で使われている言葉であります。その根本にあるのは「神の国」の存在です。「神の国」とは私たち人間が作り出すことが出来ず、たとえ、それが与えられたとしても維持することも出来ないものであり、そこには神さまの支配に置かれているという事になるのです。

今年の8月15日の終戦記念の日を迎えて、私たちの国は「平和」と言われる状態に入ってから73年の月日が経ちました。その間に様々な緊張状態にはおかれたものの「戦争」という愚かな出来事に足を踏み入れなかったことは誇りに思っていることです。しかし、この「平和」は永遠のものではありません。ちょっとしたことで緊張状態が崩れてしまうと失われてしまうものであるからです。そのために必要なことは、「平和」を求めるということです。今年の6月23日の沖縄で行われた沖縄全戦没者追悼式で、中学校3年生の相良倫子さんが読み上げた自作の「平和の詩」の中に、

「私は、今を生きている。みんなと一緒に。そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。」とあったように、「平和」を求める祈りの大切さを改めて、未来の平和の担い手である中学生の言葉から教えられました。

「平和」とは求めなければ与えられないものであり、「平和」とは、祈り求めて続けていくところに与えられるものなのです。また、同じくその「平和の詩」の中には、「戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということ。」

とも詠まれています。まさにイザヤ書に記されている言葉こそ、平和へつながっていくものであることを伝えているように思います。

「剣を鋤に」、「槍を鎌に」することは、大変な覚悟が必要です。敵が攻めてくることを考えていれば当然出来ることではありません。むしろ、どんどんと「剣」と「槍」を増やすことを考えてしまいます。しかし、「平和」とは「剣」と「槍」を打ち直す勇気と、平和を求める祈りが備えられた時にこそ、その「基」が出来上がるのです。

今年もこの8月という時に「基」が改めて作り上げられたことを信じてまいりたいと思います。そして、これからもその「基」を揺れ動かされることなく、平和を待ち望んでいく者となっていきたいと思うのです。